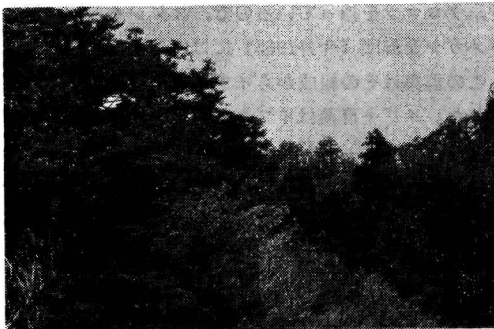


杉 田 隆 三

モミ林は東北地方から九州まで分布するが、モミ、カヤ、シキミ、アセビ、イヌガヤ、ヒイラギ、キッコウハグマ、ミヤマシキミの結びつきが認められるモミーシキミ群集は中部以西のブナ帯とシイ帯の中間帯にみられる。

兵庫県でもモミはシイ林やブナ林下部にも単木的に生育するが、モミーシキミ群集としてはやはり中間帯の植生として成立している。モミ林の大部分は伐採され小規模なものがわずかに残存している。この残存林より得た資料より判断すると、かつては高度にして500mから750mあたりまでに、温量指数（月平均気温が5度以上の月について、平均気温から5度をひいた値を積算した値で植生分布を支配する一つの要素である）が110度から95度の地域に成立していたと推定される。関宮町、養父町以南にみられ、それより北部にはみられない。



奥山国有林のモミ林

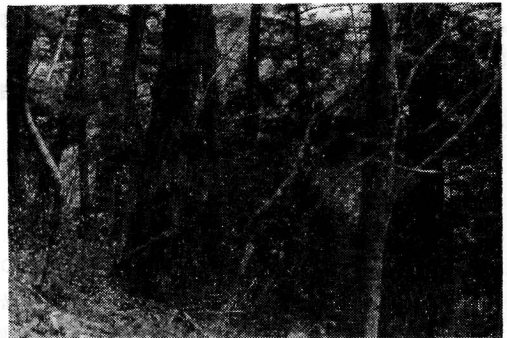
宍粟郡山崎町梯の奥山国有林のモミ林はモミ、ツガにスギが混在する部分もあるが、県下に残存するモミ林としては最大のものであり、中間帯の植生を知る貴重な資料である。県下のモミーシキミ群集は、その組成からツガ亜群集、ツクバネガシ亜群集、典型亜群集に区分できるようであるが、ここには三つの亜群集に属する林分がみられる。この点でも是非残しておきたいものである。

高木層にはモミ、ツガ、スギ、クリがみられ、場所によりモミ、ツガ、スギのいずれかが優占している。亜高木層にはモミ、ツガ、コハクウンボク、ウリハダカエデ、イイギリ、コハウチワカエデ、シロダモ、コシアブラ、クマシデなどが生育している。低木層にはモミ、ツガ、アセビ、シキミ、アブラチャン、アオハダ、ヒイラギなどのモミーシキミ群集の標徴種のほかにコガクウツ

ギ、クロモジ、シロダモ、イヌツゲ、カナクギノキ、ウラジロガシ、ヒサカキ、サカキ、パイカツツジ、ウリハダカエデ、オトコヨウゾメ、リョウブなどが生育し、アセビ、シキミが優占している。

草木層にはチマキザサ、ハイミヤマシキミ、キッコウハグマ、チゴユリ、ミカエリソウ、トウゲシバ、コカンスゲ、ベニシダ、ツルリンドウ、ノガリヤス、ヤマホトトギスなどが生育しハイミヤマシキミが優占している。

モミ林の組成の一例 高度 620m 傾斜 30度  
方位 北20度東



モミ林の内部

高木層 (35m~17m) モミ 4 ツガ 2 イイギリ、カラスザンショウ 1

亜高木層 (17m~4m) ツガ 2 コハクウンボク、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、シロダモ、アワブキ、コシアブラ、クマシデ、イイギリ、カマツカ 1

低木層 (4m~0.5m) コガクウツギ、アセビ 3 シキミ、シロダモ 2 ミズキ、クマシデ、ヒサカキ、リョウブ、オトコヨウゾメ、サカキ、クロモジ、ヒイラギ 1 シラキ、パイカツツジ、ツリバナ、スギ、イヌツゲ、サルトリイバラ 10

草本層 (0.5m以下) ハイミヤマシキミ 4 コハクウツギ 2 シロダモ、ミカエリソウ、ゴトウヅル、ベニシダ、イヌツゲ、モミ、ヒイラギ、ナガバモミジイチゴ、コカンスゲ、ツタウルシ、チマキザサ、スギ、トウゲシバ、ヤマイヌワラビ、ハリガネワラビ、アカシデ、イヌガヤ、ソヨゴ、ヤマツツジ + (数字は総合優占度をあらわす)